

北高シラバス 「 地理総合 」

単位数	2	普通科・2年	履修	必修・選択
教科書	高校生の地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）		副教材等	高校生の地理総合ノート（帝国書院）
学習の到達目標		授業の進め方		履修の条件・進路
社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		1 中学校社会科で学んだことを考慮して進めます。 2 現代世界・日本と関連づけ、地理的な思考力を身に付けます。		1 全員が履修します。 2 地歴公民科の学習に大切な基礎科目です。

	学 習 内 容	学習のポイント	学習の到達目標
1 学 期	中間 考 査 1部 地図や地理情報システムでとらえる現代世界第1章 地図や地理情報システムと現代世界 1節 地球儀と地図 2節 地図と地理情報システム 2章 結びつきを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域 2節 地図から見る国内や国家間の結びつき	・地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取ることを通じて、地図や地理情報システムの役割を学びます。 ・地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取る技能や、地図や地理情報システムを利用する技能を身に付けます。 ・目的に応じた地図や地理情報システムの活用方法について、主体的に追究し、課題を見いだします。 ・世界の国々の結びつき方、交通、通信、人の移動の特徴を学びます。	・地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取ることを通じて、地図や地理情報システムの役割や有用性を理解している。 ・地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取る技能や、地図や地理情報システムを利用する技能を身に付けている。 ・各種の地図の特徴や、地図や地理情報システムの利用方法について、多面的・多角的に考察し、表現している。
	期 末 考 査 2部 国際理解と国際協力 1章 生活文化の多様性と国際理解 序説 生活文化の多様性 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活 3節 世界の産業と人々の生活	・世界の多様な生活文化が、自然環境や社会環境を背景に、互いに影響を及ぼし合いながら形成されてきたことを学びます。 ・自然環境や社会環境、他地域との結びつきに着目しながら、世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現します。	・世界の多様な生活文化が、自然環境や社会環境を背景に、互いに影響を及ぼし合いながら形成されてきたことを理解している。 ・世界の生活文化の多様性の形成について、多面的・多角的に考察し、表現している。
2 学 期	中間 考 査 4節 世界の宗教・民族・言語と人々の生活 5節 多様な生活文化と地理的環境 事例学習	・世界の生活文化の多様性の背景や、世界の生活文化の相互関係を見いだすための、地理的見方・考え方を身に付けます。 ・世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだします。	・世界の生活文化の多様性の背景や、その相互関係を見いだすための、地理的見方・考え方を身に付けている。 ・世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
	期 末 考 査 2章 地球の課題と国際協力 序説 複雑に絡み合う地球の課題 1節 人口問題 2節 食料問題 3節 都市・居住問題 4節 感染症・衛生問題 5節 資源・エネルギー問題 6節 地球環境問題	・地球の課題が生じている場所や要因、課題どうしが相互に関係し合っていることを見いだすための、地理的見方・考え方を身に付けます。 ・地球の課題がどこで、どのように生じているのかや、解決のためにどのような取り組みがなされているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現します。	・地球の課題が生じている場所や要因、課題どうしが相互に関係し合っていることを見いだすための、地理的見方・考え方を身に付けている。 ・地球の課題や、その解決のためにどのような取り組みがなされているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。
3 学 期	学 年 末 考 査 3部 持続可能な地域づくりと私たち 1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波や火山活動による災害と防災 3節 気象災害と防災 4節 自然災害への備え	・自然災害が生じる場所と要因、日本の自然災害の特徴、生活のなかにみられる防災・減災への取り組みを学びます。 ・自然環境には災害と恩恵の両側面があり、人々が生活していくうえで必要な防災・減災に向けた備えについて、主体的に追究し、課題を見いだします。	・自然災害が生じる場所と要因、日本の自然災害の特徴、生活のなかにみられる防災・減災への取り組みを理解している。 ・人々が生活していくうえで必要な防災・減災に向けた備えについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
取組のアドバイス	○授業の取組 1：教科書・ノート・副教材・配布物等教材を持参する。 2：板書事項等のノートの整理をする。 ○家庭学習 1：授業の予習・復習を行う。 2：宿題に取り組む。 ○定期考査の勉強 1：授業内容をまとめ、理解しておく。 2：範囲内の問題による練習をする。 3：わからないところは質問をする習慣をつけておく。 ○その他のアドバイス 1：授業を大切に（定期考査は授業から出題する）。 2：発表等を積極的に行う。		
評価方法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）		
	知識・技能	世界及び日本の地理的諸事象について、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球の課題を多面的・多角的に理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けているか、定期考査や小テスト、授業における発表等をもとにして評価します。（40%）	
	思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けているか評価します。（30%）	
	主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度が身に付いているか、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを身に付けているか評価します。（30%）	

北高シラバス 「 地理総合 」

単位数	2	農業科・2年	履修	必修・選択
教科書	高校生の地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）		副教材等	高校生の地理総合ノート（帝国書院）
学習の到達目標		授業の進め方		履修の条件・進路
社会的現象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		1 中学校社会科で学んだことを考慮して進めます。 2 現代世界・日本と関連づけ、地理的な思考力を身に付けます。		1 全員が履修します。 2 地歴公民科の学習に大切な基礎科目です。

	学 習 内 容	学習のポイント	学習の到達目標
1 学期	中間 1部 地図や地理情報システムでとらえる現代世界第1章 地図や地理情報システムと現代世界 1節 地球儀と地図 2節 地図と地理情報システム 2章 結びつきを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域 2節 地図から見る国内や国家間の結びつき	・地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取ることを通じて、地図や地理情報システムの役割を学びます。 ・地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取る技能や、地図や地理情報システムを利用する技能を身に付けます。 ・目的に応じた地図や地理情報システムの活用方法について、主体的に追究し、課題を見いだします。 ・世界の国々の結びつき方、交通、通信、人の移動の特徴を学びます。	・地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取ることを通じて、地図や地理情報システムの役割や有用性を理解している。 ・地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取る技能や、地図や地理情報システムを利用する技能を身に付けている。 ・各種の地図の特徴や、地図や地理情報システムの利用方法について、多面的・多角的に考察し、表現している。
	期末 2部 国際理解と国際協力 1章 生活文化の多様性と国際理解 序説 生活文化の多様性 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活 3節 世界の産業と人々の生活	・世界の多様な生活文化が、自然環境や社会環境を背景に、互いに影響を及ぼし合いながら形成されてきたことを学びます。 ・自然環境や社会環境、他地域との結びつきに着目しながら、世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現します。	・世界の多様な生活文化が、自然環境や社会環境を背景に、互いに影響を及ぼし合いながら形成されてきたことを理解している。 ・世界の生活文化の多様性の形成について、多面的・多角的に考察し、表現している。
2 学期	中間 4節 世界の宗教・民族・言語と人々の生活 5節 多様な生活文化と地理的環境 事例学習	・世界の生活文化の多様性の背景や、世界の生活文化の相互関係を見いだすための、地理的見方・考え方を身に付けます。 ・世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだします。	・世界の生活文化の多様性の背景や、その相互関係を見いだすための、地理的見方・考え方を身に付けている。 ・世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
	期末 2章 地球的課題と国際協力 序説 複雑に絡み合う地球的課題 1節 人口問題 2節 食料問題 3節 都市・居住問題 4節 感染症・衛生問題 5節 資源・エネルギー問題 6節 地球環境問題	・地球的課題が生じている場所や要因、課題どうしが相互に関係し合っていることを見いだすための、地理的見方・考え方を身に付けます。 ・地球的課題がどこで、どのように生じているのかや、解決のためにどのような取り組みがなされているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現します。	・地球的課題が生じている場所や要因、課題どうしが相互に関係し合っていることを見いだすための、地理的見方・考え方を身に付けている。 ・地球的課題や、その解決のためにどのような取り組みがなされているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。
3 学期	学年 3部 持続可能な地域づくりと私たち 1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波や火山活動による災害と防災 3節 気象災害と防災 4節 自然災害への備え	・自然災害が生じる場所と要因、日本の自然災害の特徴、生活のなかにみられる防災・減災への取り組みを学びます。 ・自然環境には災害と恩恵の両側面があり、人々が生活していくうえで必要な防災・減災に向けた備えについて、主体的に追究し、課題を見いだします。	・自然災害が生じる場所と要因、日本の自然災害の特徴、生活のなかにみられる防災・減災への取り組みを理解している。 ・人々が生活していくうえで必要な防災・減災に向けた備えについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
取組 の アド バイ ス	○授業の取組 1：教科書・ノート・副教材・配布物等教材を持参する。 2：板書事項等のノートの整理をする。 ○家庭学習 1：授業の予習・復習を行う。 2：宿題に取り組む。 ○定期考査の勉強 1：授業内容をまとめ、理解しておく。 2：範囲内の問題による練習をする。 3：わからないところは質問をする習慣をつけておく。 ○その他のアドバイス 1：授業を大切に（定期考査は授業から出題する）。 2：発表等を積極的に行う。		
評価 方法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）		
	知識・技能	世界及び日本の地理的諸事象について、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題を多面的・多角的に理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けているか、定期考査や小テスト、授業における発表等をもとにして評価します。（40%）	
	思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けているか評価します。（30%）	
	主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度が身に付いているか、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを身に付けているか評価します。（30%）	

北高シラバス 「 地理探究 」

単位数	3	普通科・3年（I型）	履修	必履修・選択
教科書	新詳地理探究（帝国書院） 高等地図帳（二宮書店）		副教材等	新詳地理資料 COMPLETE 2025 新詳地理探究演習ノート
学習の到達目標		授業の進め方		履修の条件・進路
社会的現象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		1 中学校社会科で学んだことを考慮して進めます。 2 現代世界・日本と関連づけ、地理的な思考力を身に付けます。		1 日本史探究との選択です。 2 大学進学受験を見据えた科目です。

	学 習 内 容	学習のポイント	学習の到達目標
1 学 期	中間 考 査 第1部 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境 序節 地球環境と人間 1節 地形 2節 気候 3節 日本の自然環境 4節 地球環境問題	・地形、気候、生態系などに関わる諸事象などについて理解すること。 ・地形、気候、生態系などに関わる諸事象などについて、主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現すること。	・地形、気候、生態系などに関わる諸事象などについて理解している。 ・地形、気候、生態系などに関わる諸事象などについて、主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現している。
	期末 考 査 第2部 資源と産業 1節 農林水産業 2節 食料問題 3節 エネルギー・鉱産資源 4節 資源・エネルギー問題 5節 工業 6節 第3次産業	・資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象などについて、主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現すること。 ・資源、産業について、課題を主体的に追究しようとする。	・資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象などについて、主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・資源、産業について、課題を主体的に追究しようとしている。
2 学 期	中間 考 査 第3部 交通・通信と観光、貿易 1節 交通・通信 2節 観光 3節 貿易と経済圏 第4部 人口、村落・都市 1節 人口 2節 人口問題 3節 村落と都市 4節 都市・居住問題 第5部 生活文化、民族・宗教 1節 衣食住 2節 民族・宗教と民族問題 3節 国家の領域と領土問題	・交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光、人口、村落・都市、生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象について理解すること。 ・交通・通信、観光、人口、村落・都市、生活文化、民族・宗教について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。	・交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光、人口、村落・都市などに関わる諸事象について理解している。 ・交通・通信、観光人口、村落・都市について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	期末 考 査 第2部 現代世界の地誌的考察 第1章 現代世界の地域区分 1節 地域区分 第2章 現代世界の諸地域 序節 地域の考察方法 1節 中国 2節 韓国 3節 ASEAN諸国 4節 インド 5節 西アジアと中央アジア 6節 北アフリカとサハラ以南 7節 E U諸国 8節 ロシア 9節 アメリカ合衆国 10節 ラテンアメリカ 11節 オーストラリアとニュージーランド	・世界や世界の諸地域に関する各種の主題図や資料をもとに、地誌的に考察する方法などについて理解すること。 ・世界や世界の諸地域について、各種の主題図や資料を踏まえて地域区分をする地理的技能を身につけること。 ・世界や世界の諸地域の地域区分、現代社会の諸地域について、地域的特色や地球的課題などに着目して、主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現すること。	・世界や世界の諸地域に関する各種の主題図や資料をもとに、地誌的に考察する方法などについて理解している。 ・世界や世界の諸地域について、各種の主題図や資料を踏まえて地域区分をする地理的技能を身につけている。 ・世界や世界の諸地域の地域区分、現代社会の諸地域について、地域的特色や地球的課題などに着目して、主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現している。
3 学 期	学 年 末 考 査 第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像 第1章 持続可能な国土像の探究 1節 将来の国土の在り方 2節 持続可能な日本の国土像の探究	・現代世界におけるこれからの日本の国土像について、主題を設定し、多面的・多角的に探究し、表現すること。 ・国土像について、課題を主体的に探究しようとする。	・現代世界におけるこれからの日本の国土像について、主題を設定し、多面的・多角的に探究し、表現している。 ・国土像について、課題を主体的に探究しようとしている。
取 組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1：教科書・ノート・副教材・配布物等教材を持参する。 2：板書事項等のノートの整理をする。 ○家庭学習 1：授業の予習・復習を行う。 2：宿題に取り組む。 ○定期考査の勉強 1：授業内容をまとめ、理解しておく。 2：範囲内の問題による練習をする。 3：わからないところは質問をする習慣をつけておく。 ○その他のアドバイス 1：授業を大切に（定期考査は授業から出題する）。 2：発表等を積極的に行う。		
評 価 方 法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）		
	知識・技能	世界及び日本の地理的諸事象について、空間的な規則性、傾向性や、諸問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて多面的・多角的に理解するとともに、その解決の方向性や在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けているか、定期考査や小テスト、授業における発表等をもとにして評価します。（40%）	
	思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けているか評価します。（30%）	
	主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度が身に付いているか、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを身に付けているか評価します。（30%）	

北高シラバス 「 地理探究 」

単位数	4	普通科・3年（Ⅱ型・理系）	履修	必修・選択
教科書	新詳地理探究（帝国書院） 高等地図帳（二宮書店）		副教材等	新詳地理資料 COMPLETE 2026 地理総合・探究ワークブック 2026
学習の到達目標		授業の進め方		履修の条件・進路
社会的現象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		1 中学校社会科で学んだことを考慮して進めます。 2 現代世界・日本と関連づけ、地理的な思考力を身に付けます。		1 地歴公民科の必修修科目です。 2 大学進学受験を見据えた科目です。

	学 習 内 容	学習のポイント	学習の到達目標
1 学 期	中間 考 査 第1部 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境 第1節 地球環境と人間 2節 地形 3節 気候 4節 日本の自然環境 5節 地球環境問題 第2章 資源と産業 1節 農林水産業 2節 食料問題 3節 エネルギー・鉱産資源 4節 資源・エネルギー問題 5節 工業 6節 第3次産業	・地形、気候、生態系などに関わる諸事象について理解すること。 ・地形、気候、生態系などに関わる諸事象について多面的・多角的に考察し、表現すること。 ・資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象について多面的・多角的に考察し、表現すること。 ・資源、産業について、課題を主体的に追究しようとする。	・地形、気候、生態系などに関わる諸事象について理解している。 ・地形、気候、生態系などに関わる諸事象について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・資源、産業について、課題を主体的に追究しようとしている。
	期末 考 査 第3章 交通・通信と観光、貿易 1節 交通・通信 2節 観光 3節 貿易と経済圏 第4章 人口、村落・都市 1節 人口 2節 人口問題 3節 村落と都市 4節 都市・居住問題 第5章 生活文化、民族・宗教 1節 衣食住 2節 民族・宗教と民族問題 3節 国家の領域と領土問題	・交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光、人口、村落・都市、生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象について理解すること。 ・交通・通信、観光、人口、村落・都市、生活文化、民族・宗教について、課題を主体的に追究しようとする。	・交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光、人口、村落・都市などに関わる諸事象について理解している。 ・交通・通信、観光人口、村落・都市について、課題を主体的に追究しようとしている。
2 学 期	中間 考 査 第2部 現代世界の地誌的考察 第1章 地域区分 第1節 地域区分の諸地域 第2節 地域区分の方法 第3節 地域区分の諸地域 第4節 ASEAN諸国 第5節 インドと中央アジア 第6節 西アジアと北アフリカ 第7節 アフリカ 第8節 EU諸国 第9節 ロシア 第10節 アメリカ合衆国 第11節 ラテンアメリカとニュー ジラランド	・世界や世界の諸地域に関する各種の主題図や資料をもとに、地誌的に考察する方法などについて理解すること。 ・世界や世界の諸地域について、各種の主題図や資料を踏まえて地域区分をする地理的技能を身に付けること。 ・世界や世界の諸地域の地域区分、現代社会の諸地域について、主題を設定し、地域のとらえ方などを多面的・多角的に考察し、表現すること。	・世界や世界の諸地域に関する各種の主題図や資料をもとに、地誌的に考察する方法などについて理解している。 ・世界や世界の諸地域について、各種の主題図や資料を踏まえて地域区分をする地理的技能を身に付けている。 ・世界や世界の諸地域の地域区分、現代社会の諸地域について、主題を設定し、地域のとらえ方などを多面的・多角的に考察し、表現している。
	期末 考 査 第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像 第1章 持続可能な国土像の探究 1節 将来の国土の在り方 2節 持続可能な日本の国土像の探究	・現代世界におけるこれからの日本の国土像について、多面的・多角的に探究し、表現すること。 ・国土像について、課題を主体的に探究しようとする。	・現代世界におけるこれからの日本の国土像について、多面的・多角的に探究し、表現している。 ・国土像について、課題を主体的に探究しようとしている。
3 学 期	学年 末 考 査		
	取組 の ア ド バ イ ス ○授業の取組 1：教科書・ノート・副教材・配布物等教材を持参する。 2：板書事項等のノートの整理をする。 ○家庭学習 1：授業の予習・復習を行う。 2：宿題に取り組む。 ○定期考査の勉強 1：授業内容をまとめ、理解しておく。 2：範囲内の問題による練習をする。 3：わからないところは質問をする習慣をつける。 ○その他のアドバイス 1：授業を大切に（定期考査は授業から出題する）。 2：発表等を積極的に行う。		
評 価 方 法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）		
	知識・技能	世界及び日本の地理的諸事象について、空間的な規則性、傾向性や、諸問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて多面的・多角的に理解するとともに、その解決の方向性や在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けているか、定期考査や小テスト、授業における発表等をもとにして評価します。（40%）	
	思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けているか評価します。（30%）	
	主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度が身に付いているか、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを身に付けているか評価します。（30%）	

北高シラバス 「 歴史総合 」

単位数	2	普通科・1年	履修	必修・選択
教科書	高等学校 改訂版 新歴史総合(第一学習社)	副教材等	新歴史総合ノート (第一学習社)	
学習の到達目標		授業の進め方		履修の条件・進路
社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		1 中学校社会科で学んだことを考慮して進めます。 2 現代世界・日本と関連づけ、歴史的な思考力を身に付けます。		1 全員が履修します。 2 地歴公民科の学習に大切な基礎科目です。

	学 習 内 容		学習のポイント	学習の到達目標
1 学 期	中間 考 査	第1部 歴史の扉 ①歴史と私たち ②歴史の特質と資料 第2部 近現代の世界と日本 第1章 近代化と私たち近代化への問い 第1節 18世紀のアジアの繁栄	・私たちに関わる諸事象が、日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを学びます。 ・18世紀の日本やその他のアジアにおける経済活動や社会の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを考え、表現して、18世紀のアジアの経済と社会を学びます。	・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考え、理解する。 ・18世紀のアジアの経済と社会を理解する。
	期末 考 査	第2節 工業化の進展と国民国家の建設 第3節 結び付く世界と日本の開国 第4節 帝国主義とアジア諸国の変容	・政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを考え、表現して、立憲体制と国民国家の形成を学びます。 ・帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを考え、表現して、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を学びます。	・工業化と世界市場の形成を理解する。 ・国民国家の形成の背景や影響などに着目して、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などについて考え、適切に捉える。
2 学 期	中間 考 査	近代化と現代的な諸課題 第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 国際秩序の変化や大衆化への問い 第1節 第一次世界大戦と大衆社会	・総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を学びます。 ・第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを考えたり表現したりして、大衆社会の形成と社会運動の広がりを学びます。	・アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について考え、分かりやすくまとめる。 ・第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを考え、理解する。
	期末 考 査	第2節 経済危機と第二次世界大戦 第3節 第二次世界大戦後の世界と日本 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	・各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを考えたり表現したりして、国際協調体制の動揺を学びます。 ・第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を学びます。	・世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解する。 ・日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について考え、理解する。
3 学 期	学年 末 考 査	第3章 グローバル化と私たち グローバル化への問い 第1節 冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭 第2節 世界秩序の変容と日本現代的な諸課題の形成と展望	・世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会について学びます。 ・これまでの学習を踏まえて、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について考え、構想し、現代的な諸課題を学びます。	・冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを考え、的確に表現する。 ・持続可能な社会の実現を視野に入れ、自ら主題を設定し、歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解する。
取 組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1：教科書・ノート・副教材・配布物等教材を持参する。 2：板書事項等のノートの整理をする。			
	○家庭学習 1：授業の予習・復習を行う。 2：宿題に取り組み。			
	○定期考査の勉強 1：授業内容をまとめ、理解しておく。 2：範囲内の問題による練習をする。 3：わからないところは質問をする習慣をつけておく。			
評 価 方 法	○その他のアドバイス 1：授業を大切に（定期考査は授業から出題する）。 2：発表等を積極的に行う。			
	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）			
	知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けているか、定期考査や小テスト、授業における発表等をもとにして評価します。（40%）		
	思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けているか評価します。（30%）		
	主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けているか評価します。（30%）		

単位数	2	生産食品科・3年	履修	必履修・選択
教科書	高等学校 改訂版 新歴史総合(第一学習社)	副教材等	新歴史総合ノート (第一学習社)	
学習の到達目標		授業の進め方		履修の条件・進路
社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		1 中学校社会科で学んだことを考慮して進めます。 2 現代世界・日本と関連づけ、歴史的な思考力を身に付けます。		1 全員が履修します。 2 地歴公民科の学習に大切な基礎科目です。

	学 習 内 容	学習のポイント	学習の到達目標
1 学 期	中間 考 査 第1部 歴史の扉 ①歴史と私たち ②歴史の特質と資料 第2部 近現代の世界と日本 第1章 近代化と私たち近代化への問い 第1節 18世紀のアジアの繁栄	・私たちに關わる諸事象が、日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを学びます。 ・18世紀の日本やその他のアジアにおける経済活動や社会の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを考え、表現して、18世紀のアジアの経済と社会を学びます。	・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考え、理解する。 ・18世紀のアジアの経済と社会を理解する。
	期 末 考 査 第2節 工業化の進展と国民国家の建設 結び付く世界と日本の開国 第3節 帝国主義とアジア諸国の変容	・政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを考え、表現して、立憲体制と国民国家の形成を学びます。 ・帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを考え、表現して、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を学びます。	・工業化と世界市場の形成を理解する。 ・国民国家の形成の背景や影響などに着目して、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などについて考え、適切に捉える。
2 学 期	中間 考 査 近代化と現代の諸課題 第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 国際秩序の変化や大衆化への問い 第1節 第一次世界大戦と大衆社会	・総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を学びます。 ・第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを考えたり表現したりして、大衆社会の形成と社会運動の広がり学びます。	・アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について考え、分かりやすくまとめる。 ・第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを考え、理解する。
	期 末 考 査 第2節 経済危機と第二次世界大戦 第3節 第二次世界大戦後の世界と日本 国際秩序の変化や大衆化と現代の諸課題	・各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを考えたり表現したりして、国際協調体制の動揺を学びます。 ・第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を学びます。	・世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解する。 ・日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について考え、理解する。
3 学 期	学 年 末 考 査 第3章 グローバル化と私たち グローバル化への問い 第1節 冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭 第2節 世界秩序の変容と日本現代の諸課題の形成と展望	・世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会について学びます。 ・これまでの学習を踏まえて、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について考え、構想し、現代の諸課題を学びます。	・冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを考え、的確に表現する。 ・持続可能な社会の実現を視野に入れ、自ら主題を設定し、歴史的経緯を踏まえて、現代の諸課題を理解する。
取組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1：教科書・ノート・副教材・配布物等教材を持参する。 2：板書事項等のノートの整理をする。 ○家庭学習 1：授業の予習・復習を行う。 2：宿題に取り組む。 ○定期考査の勉強 1：授業内容をまとめ、理解しておく。 2：範囲内の問題による練習をする。 3：わからないところは質問をする習慣をつけておく。 ○その他のアドバイス 1：授業を大切に（定期考査は授業から出題する）。 2：発表等を積極的に行う。		
評 価 方 法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。(100点法)		
	知識・技能	近現代の歴史の変化に關わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代の諸課題の形成に關わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に關する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けているか、定期考査や小テスト、授業における発表等をもとにして評価します。(40%)	
	思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に關わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けているか評価します。(30%)	
	主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に關わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けているか評価します。(30%)	

北高シラバス「日本史探究」

単位数	3	対象学科・学年	普通科・2年Ⅱ型文系	履修	必履修・選択
教科書	詳説日本史（山川出版社）			副教材等	・最新日本史図表(第一学習社) ・詳説日本史ノート (山川出版社)
学習の到達目標			授業の進め方		履修の条件・進路
1 我が国の歴史の展開を世界の歴史などから総合的に捉えて理解し、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける 2 歴史に見られる課題の解決を視野に構想する力や、議論したりする力を養い、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚や他国や他国の文化を尊重することの大切さを深める。			1 パワーポイントを使用して授業を進めます。 2 史・資料を活用して、主体的に考察する力を身に着けます。 3 日本の歴史を世界の歴史や現代と関連させます。		1 2・3年の継続履修です。 2 大学受験科目として適切です。

	学 習 内 容		学習のポイント及び到達目標	学習を深めるアドバイス
1学期	中間 考查	第1章 文化のあけぼの	・自然環境や大陸からの文化の影響に着目し、旧石器・縄文・弥生文化の時代の社会について学習します。	・縄文文化及び弥生文化の時代の気候や地形、動植物相の変化における社会の変化について調べる。
		第2章 古墳とヤマト政権	・古墳の変化に着目しヤマト政権の特色を学習します。	・古代国家形成までの過程について調べる。
	期末 考查	第3章 律令国家の形成	・律令体制確立の課程や東アジア世界との交流に着目し、古代国家について学習します。	・東アジア世界との関係と東アジア世界がもたらせた古代国家への影響について調べる。
		第4章 貴族政治の展開	・大陸文化をふまえ、日本人の生活や嗜好や貴族社会を中心とした社会が形成されたことと地方社会の変化について学習します。	・律令体制の導入による政治制度の移り変わりについて調べる。
2学期	中間 考查	第5章 院政と武士の躍進	・武士の支配と朝廷との関係、武家政権の形成過程について学習します。	・公家政権と武家政権の大きな違いについて調べる。
		第6章 武家政権の成立	・中世日本の国際交流に関する資料を通して読み取れる情報から、中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。	・蒙古襲来絵巻などの資料をもとに、当時の武士の生活や考え方について調べる。
	期末 考查	第7章 武家社会の成長	・諸地域の動向、庶民の台頭に着目し、中世社会の多様な展開やについて学習します。	・絵画などの資料から室町時代の社会と経済活動について調べる。
		第8章 近世の幕開け	・織豊政権による全国統一と、その政策の目的や意義について学習します。	・資料を基に、織豊政権による諸政策の目的や意義について考察し、表現する。
3学期	学年 末 考查	第9章 幕藩体制の成立と展開	・幕藩体制下での経済機構や交通・技術の発展などに着目し、諸産業の発展及び文化の形成、人々の生活文化について学習します。	・国際環境の変化が幕藩体制にどのような影響を与えたか調べる。
取組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1：教科書・ノート・副教材・配布物等教材を持参する。2：板書事項等のノートの整理をする。 ○家庭学習 1：授業の予習・復習を行う。2：宿題に取り組み。 ○定期考査の勉強 1：授業内容をまとめ、理解しておく。2：範囲内の問題による練習をする。 3：わからないところは質問をする習慣をつけておく。 ○その他のアドバイス 1：授業を大切にする（定期考査は授業から出題する）。2：発表等を積極的に行う。			
	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）			
評価 方法	知識・技能		近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けているか、定期考査や小テスト、授業における発表等をもとにして評価します。（40%）	
	思考・判断・表現		近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けているか評価します。（30%）	
	主体的に学習に取り組む態度		近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けているか評価します。（30%）	

北高シラバス「日本史探究」

単位数	3	対象学科・学年	普通科・3年（Ⅰ型）	履修	必履修・選択
教科書	高等学校 日本史探究(第一学習社)			副教材等	・日本史探究ノート(第一学習社)
学習の到達目標				授業の進め方	履修の条件・進路
1 我が国の歴史の展開を世界の歴史などから総合的に捉えて理解し、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける 2 歴史に見られる課題の解決を視野に構想する力や、議論したりする力を養い、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚や他国や他国の文化を尊重することの大切さを深める。				1 パワーポイントを使用して授業を進めます。 2 史・資料を活用して、主体的に考察する力を身に着けます。 3 日本の歴史を世界の歴史や現代と関連させます。	1 地理探究との選択です。 2 大学進学受験を見据えた科目です。

	学 習 内 容		学習のポイント及び到達目標	学習を深めるアドバイス	
1 学期	中間 考查	第1章 原始・古代の日本と東アジア	・旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立などを基に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解する。 ・国家の形成と古墳文化、律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、原始から古代の政治・社会や文化の特色を理解する。	・歴史資料の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する活動に主体的に取り組む。	
		第1節 日本文化の黎明			
		第2節 ヤマト政権と律令国家の形成			
	期末 考查	第3節 律令国家の変容			
第2章 中世の日本と世界		・貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の展開を理解する。 ・権力の主体の変化、東アジアとの関わりなどに着目して、古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現する。	・中世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取り、表現する。		
第1節 中世への転換					
第2節 鎌倉幕府の展開					
第3節 室町幕府の展開					
2 学期	中間 考查	第3章 近世の日本と世界	・織豊政権の政治・経済政策、貿易や対外関係などを基に、中世から近世への時代の転換を理解する。 ・村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流の影響などに着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現する。	・時代の転換に着目して、近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。 ・近世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取り、表現する。	
		第1節 近世への転換			
		第2節 幕藩体制の確立			
		第3節 幕藩体制の展開			
	期末 考查	第4節 社会の変化と幕府の対応			
		第4章 近現代の地域・日本と世界		・対外政策の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立などを基に、近世から近代への時代の転換を理解する。 ・欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・時代の転換に着目して、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。	・近代の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取り、表現する。 ・歴史資料の特性を踏まえ、資料から読み取れる情報から、近代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する活動に主体的に取り組む。
		第1節 近代への転換			
		第2節 近代国家の形成			
		第3節 国際関係の推移と近代産業の発展			
		第4節 第一次世界大戦と日本			
第5節 軍部の台頭と戦争の長期化					
3 学期	学 年 末 考 査	第6節 日本の再建	・恐慌と国際関係、軍部の台頭と対外政策、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開などを基に、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解する。	・歴史の画期、地域社会の諸相と日本や世界との歴史的な関係、それ以前の時代からの継続や変化などに着目して、現代の日本の課題の形成に関わる歴史について、多面的・多角的に考察、構想して表現する。	
		第7節 経済の発展			
		第8節 経済大国とグローバル化			
		第5章 現代の日本の課題の探究			
取組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1：教科書・ノート・副教材・配布物等教材を持参する。2：板書事項等のノートの整理をする。 ○家庭学習 1：授業の予習・復習を行う。2：宿題に取り組む。 ○定期考査の勉強 1：授業内容をまとめ、理解しておく。2：範囲内の問題による練習をする。 3：わからないところは質問をする習慣をつけておく。 ○その他のアドバイス 1：授業を大切にする（定期考査は授業から出題する）。2：発表等を積極的に行う。				
	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）				
	評価 方法	知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けているか、定期考査や小テスト、授業における発表等をもとにして評価します。（40%）		
		思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けているか評価します。（30%）		
主体的に学習に取り組む態度		近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けているか評価します。（30%）			

北高シラバス「日本史探究」

単位数	3	対象学科・学年	普通科・3年Ⅱ型文系	履修	必履修・選択
教科書	詳説日本史（山川出版社）		副教材等	・最新日本史図表(第一学習社) ・詳説日本史ノート (山川出版社)	
学習の到達目標		授業の進め方		履修の条件・進路	
1 我が国の歴史の展開を世界の歴史などから総合的に捉えて理解し、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける 2 歴史に見られる課題の解決を視野に構想する力や、議論したりする力を養い、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚や他国や他国の文化を尊重することの大切さを深める。		1 パワーポイントを使用して授業を進めます。 2 史・資料を活用して、主体的に考察する力を身に着けます。 3 日本の歴史を世界の歴史や現代と関連させます。		1 2・3年の継続履修です。 2 大学受験科目として適切です。	

	学 習 内 容	学習のポイント及び到達目標	学習を深めるアドバイス
1 学期	中間 第11章 近世から近代へ 第12章 近代国家の成立	・欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化や江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯などを学習します。 ・明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について学習します。	・日本の開国に関わる諸事象を国際的な視点から考察し、開国のもたらす政治的・経済的・社会的影響について調べる。
	期末 第13章 近代国家の展開	・日清・日露戦争の前後における条約改正の完成、韓国併合や満洲への勢力拡張などについて諸資料から情報を読み取り、この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化を学習します。	・対外戦争がもたらした国内的・国際的な変化を踏まえて学習を振り返る。
2 学期	中間 第14章 近代の産業と生活 第15章 恐慌と第二次世界大戦	・産業の発達の背景と影響などに着目し、諸資料から産業革命の展開について適切に情報を読み取り、地域社会における労働や生活の変化が社会問題を生み出したことを学習します。	・産業の発展とそれによる社会問題への対応について課題を見出し、考察する。
	期末 第16章 占領下の日本	・第二次大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革について学習します。	・現代の日本との関係性を踏まえながら、占領期における諸改革が生み出した成果と課題について調べる。
3 学期	学年 第17章 高度成長の時代 期末 第18章 激動する世界と日本	・保守合同による自由民主党の成立から、経済成長を背景とする安定した保守政権の誕生に至る経緯について学習します。	・55年体制の歴史的意義や、1960年代における保守政権の安定化を考察することを通じて、独立後の国内政治について調べる。
取組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1：教科書・ノート・副教材・配布物等教材を持参する。2：板書事項等のノートの整理をする。 ○家庭学習 1：授業の予習・復習を行う。2：宿題に取り組み。 ○定期考査の勉強 1：授業内容をまとめ、理解しておく。2：範囲内の問題による練習をする。 3：わからないところは質問をする習慣をつけておく。 ○その他のアドバイス 1：授業を大切にする（定期考査は授業から出題する）。2：発表等を積極的に行う。		
評 価 方 法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）		
	知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けているか、定期考査や小テスト、授業における発表等をもとにして評価します。（40%）	
	思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けているか評価します。（30%）	
	主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けているか評価します。（30%）	

単位数	2	普通科・1年	履修	必履修・選択
教科書	改訂版 高等学校 公共（数研出版）	副教材等	公共整理ノート（数研出版）	
学習の到達目標		授業の進め方		履修の条件・進路
1 政治・社会の主体となるために不可欠な知識を学び、そのための能力を身に付ける事を目指す。 2 現代の諸課題を捉え、解決に向けて、多面的・多角的に考察し、公正に判断する力や構想したことを議論する力を養う。		1 公共整理ノートを活用しながら講義形式で授業を進めます。 2 情報を収集し、読み取り、まとめ、それを基に議論する力を身に付けます。		・全員が履修する必修科目です。3年次に選択履修する公民科目の基礎科目です。

	学 習 内 容	学習のポイント	学習の到達目標
1 学期	中間 考査 巻頭特集 公共的な空間をつくる私たち 第1章 公共的な空間における人間としてのあり方 生き方	・青年期とはどのような時期か、また自己形成の課題について学習します。 ・伝統や文化、宗教などをもとに社会が成立していることを学習します。 ・自分たちが生きる社会が多様な人々から成り立っていることを学習します。	・自分の生き方について考え、自己実現を目指していく。 ・先人の思想や伝統、文化、宗教が自分自身に影響を与えていることを理解する。 ・現代の諸課題についての理解を深め、解決に向けて考える。
	期末 考査 第2章 公共的な空間における基本原理	・民主政治における国家と個人のあり方について学習します。 ・日本国憲法の基本原理や日本国憲法で保障されている権利について学習します。	・民主政治が自らの生活と関わっていることを理解し、主体的に生きることについて考えを深める。 ・日本国憲法で保障されている権利を理解できている。
2 学期	中間 考査 第3章 ルールをつくり守る私たち 第4章 政治に参加する私たち	・法や規範の意義や役割について学習します。 ・公正な裁判には、司法権の独立と国民の参加が重要であることを学習します。 ・地方自治や選挙の仕組み、政党の役割を学習します。 ・国際政治について学習し、国際社会の諸問題について、考察します。	・司法に関心を持ち、裁判員制度の意義を理解し、積極的に参画する自覚を持つ。 ・選挙に積極的に参加するなど、主権者としての自覚を持つことができる。
	期末 考査 第5章 経済活動を行う私たち	・経済のしくみなど経済に関する基礎的知識を身に付けます。 ・財政のしくみや社会保障について学習します。 ・国際経済について学習します。	・経済社会に主体的に生きる一員として、今後の日本経済について考えることができる。 ・日本の経済について、課題を発見し、解決する見通しを持っている。
3 学期	学年 末考査 課題探究編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	・現代社会の諸問題について、資料を収集・選択し、分析しながら考え、その内容をレポートや口頭発表などによって、的確に表現します。	・現代社会の諸問題について、主体的に課題を選択し、意欲的に探究できている。探究した内容を的確に表現できている。
取組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1 教科書、公共整理ノート、プリントを持参する。 ○家庭学習 1 授業の予習、復習をする。 ○定期考査の勉強 1 教科書、公共整理ノート、プリントを使って、授業内容の復習をする。 ○その他のアドバイス 1 自分の考えを発表するなど、積極的に授業に参加する。 2 日頃から、新聞を読んだり、ニュースを見たりするなど、時事に関心を持つよう心掛ける。		
評 価 方 法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）		
	知識・技能	基礎的な事項や現代の諸課題について理解し、諸資料から適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けているか、定期考査や課題、発表等をもとにして評価します。（40%）	
	思考・判断・表現	諸資料を収集、選択し、現代の諸課題について、公正に判断し、構想したことを発表したり、議論したりする力を評価します。（課題、レポート、発表等）（30%）	
	主体的に学習に取り組む態度	主体的に授業に参加し、自分の考えを発表するなど意欲的に授業に取り組もうとする態度や出席状況、課題、ノートの提出を評価します。（30%）	

単位数	2	農業科・1年	履修	必修・選択
教科書	改訂版 高等学校 公共（数研出版）	副教材等	公共整理ノート（数研出版）	
学習の到達目標		授業の進め方		履修の条件・進路
1 政治・社会の主体となるために不可欠な知識を学び、そのための能力を身に付ける事を目指す。 2 現代の諸課題を捉え、解決に向けて、多面的・多角的に考察し、公正に判断する力や構想したことを議論する力を養う。		1 公共整理ノートを活用しながら講義形式で授業を進めます。 2 情報を収集し、読み取り、まとめ、それを基に議論する力を身に付けます。		・全員が履修する必修科目です。3年次に選択履修する公民科目の基礎科目です。

	学 習 内 容	学習のポイント	学習の到達目標
1 学期	中間 考 査 巻頭特集 公共的な空間をつくる私たち 第1章 公共的な空間における人間としてのあり方 生き方	・青年期とはどのような時期か、また自己形成の課題について学習します。 ・伝統や文化、宗教などをもとに社会が成立していることを学習します。 ・自分たちが生きる社会が多様な人々から成り立っていることを学習します。	・自分の生き方について考え、自己実現を目指していく。 ・先人の思想や伝統、文化、宗教が自分自身に影響を与えていることを理解する。 ・現代の諸課題についての理解を深め、解決に向けて考える。
	期 末 考 査 第2章 公共的な空間における基本原理	・民主政治における国家と個人のあり方について学習します。 ・日本国憲法の基本原理や日本国憲法で保障されている権利について学習します。	・民主政治が自らの生活と関わっていることを理解し、主体的に生きることについて考えを深める。 ・日本国憲法で保障されている権利を理解できている。
2 学期	中間 考 査 第3章 ルールをつくり守る私たち 第4章 政治に参加する私たち	・法や規範の意義や役割について学習します。 ・公正な裁判には、司法権の独立と国民の参加が重要であることを学習します。 ・地方自治や選挙の仕組み、政党の役割を学習します。 ・国際政治について学習し、国際社会の諸問題について、考察します。	・司法に関心を持ち、裁判員制度の意義を理解し、積極的に参画する自覚を持つ。 ・選挙に積極的に参加するなど、主権者としての自覚を持つことができる。
	期 末 考 査 第5章 経済活動を行う私たち	・経済のしくみなど経済に関する基礎的知識を身に付けます。 ・財政のしくみや社会保障について学習します。 ・国際経済について学習します。	・経済社会に主体的に生きる一員として、今後の日本経済について考えることができる。 ・日本の経済について、課題を発見し、解決する見通しを持っている。
3 学期	学 年 末 考 査 課題探究編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	・現代社会の諸問題について、資料を収集・選択し、分析しながら考え、その内容をレポートや口頭発表などによって、的確に表現します。	・現代社会の諸問題について、主体的に課題を選択し、意欲的に探究できている。探究した内容を的確に表現できている。
取組のアドバイス	○授業の取組 1 教科書、公共整理ノート、プリントを持参する。 ○家庭学習 1 授業の予習、復習をする。 ○定期考査の勉強 1 教科書、公共整理ノート、プリントを使って、授業内容の復習をする。 ○その他のアドバイス 1 自分の考えを発表するなど、積極的に授業に参加する。 2 日頃から、新聞を読んだり、ニュースを見たりするなど、時事に関心を持つよう心掛ける。		
評価方法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）		
	知識・技能	基礎的な事項や現代の諸課題について理解し、諸資料から適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けているか、定期考査や課題、発表等をもとにして評価します。（40%）	
	思考・判断・表現	諸資料を収集、選択し、現代の諸課題について、公正に判断し、構想したことを発表したり、議論したりする力を評価します。（課題、レポート、発表等）（30%）	
	主体的に学習に取り組む態度	主体的に授業に参加し、自分の考えを発表するなど意欲的に授業に取り組もうとする態度や出席状況、課題、ノートの提出を評価します。（30%）	

単位数	3	普通科・3年I型	履修	必履修・選択
教科書	高等学校 政治・経済（第一学習社）		副教材等	政治・経済ノート
学習の到達目標		授業の進め方		履修の条件・進路
1 現代の諸課題を追究し、主体的に解決にしようとする態度を養う。 2 政治・経済に関する基礎的・基本的な事項を確実に習得する。 3 就職や公務員試験等に対応できる学力を身に付ける。		講義式授業を基本とし、政治・経済に関する基礎的・基本的な事項を学習します。個別に興味・関心のあるテーマを決め、探究的な学習も行います。		1 選択者が履修します。 2 就職や公務員の一般教養試験への対応ができます。

	学 習 内 容	学習のポイント	学習の到達目標
1 学 期	中間 考 査 1 現代日本の政治・経済の諸課題 (1) 現代日本の政治・経済	・政治や政治権力の意味とその役割について理解する。 ・よりよい民主政治のあり方について、考察し、表現する。	・望ましい政治のあり方及び主権者としての政治参加のあり方について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
	期末 考 査 (2) 現代日本の諸課題の探究	・経済の役割と市場経済における人々の選択について、理解する。 ・現代社会の諸課題を探究し、課題の解決に向けて、考察し、説明、論述する。	・望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
2 学 期	中間 考 査 2 グローバル化する国際社会の諸課題 (1) 現代の国際政治・経済	・現代社会の諸課題を主体的に解決し、合意形成や社会参画を目指す。 ・国際社会の多極化や国際協力について、多面的・多角的に考察し、表現する。	・「市場経済の機能と限界」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
	期末 考 査 (2) 国際社会の諸課題の探究	・国際経済における日本の地位について、理解する。 ・「国際経済において求められる日本の役割」について、考察する。	・「相互依存関係が深まる国際経済の特質」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
3 学 期	学年 末 考 査 (3) 国際社会の諸課題の探究	・国際社会の諸課題を探究する活動を通して、課題の解決に向けて多面的・多角的に考察し、自分の考えを説明、表現する。	・「国際経済において求められる日本の役割」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
取組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1 教科書、政治・経済ノートを持参する。 2 授業に積極的に参加する。 ○家庭学習 1 授業の予習・復習をする。 2 課題に取り組む。 ○定期考査の勉強 1 ノートを参考に復習をし、基礎的な事項を覚える。 2 演習問題に取り組む。 ○その他のアドバイス 1 政治・経済に関するニュースに関心を持つ。 2 政治・経済に関する自分の考えを論述する。		
評 価 方 法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。(100点法)		
	知識・技能	定期考査や小テスト、授業における探究的な学習をもとにして、基本的な用語や諸課題を理解し、考察、説明をすることができるか、また社会の在り方に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめているか等で評価します。(40%)	
	思考・判断・表現	現実社会に見られる複雑な課題を把握し、自分の考えをまとめて説明したり、発表したりすることができるか、議論し、公正に判断しているか等で評価します。(30%)	
	主体的に学習に取り組む態度	課題やノート提出状況・授業への取組・出席状況等を確認します。理解を深めるために、主体的に取り組むことができているか、現代の諸課題を主体的に解決しようと取り組むことができているか等で評価します。(30%)	

単位数	2	普通科・3年Ⅱ型	履修	必修・選択
教科書	高等学校 政治・経済（第一学習社）		副教材等	政治・経済ノート
学習の到達目標		授業の進め方		履修の条件・進路
1 現代の諸課題を追究し、主体的に解決にしようとする態度を養う。 2 政治・経済に関する基礎的・基本的な事項を確実に習得する。 3 必要に応じて共通テストや小論文対策のため、演習問題にも取り組み、専門的な知識を身に付ける。		講義式授業を基本とし、政治・経済に関する基礎的・基本的な事項を学習します。個別に興味・関心のあるテーマを決め、探究的な学習も行います。		1 選択者が履修します。 2 共通テストや小論文対策も行います。

	学 習 内 容	学習のポイント	学習の到達目標
1 学期	中間 1 現代日本の政治・経済の諸課題 (1) 現代日本の政治・経済	・政治や政治権力の意味とその役割について理解する。 ・よりよい民主政治のあり方について、考察し、表現する。	・望ましい政治のあり方及び主権者としての政治参加のあり方について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
	期末 (2) 現代日本の諸課題の探究	・経済の役割と市場経済における人々の選択について、理解する。 ・現代社会の諸課題を探究し、課題の解決に向けて、考察し、説明、論述する。	・望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
2 学期	中間 2 グローバル化する国際社会の諸課題 (1) 現代の国際政治・経済	・現代社会の諸課題を主体的に解決し、合意形成や社会参画を目指す。 ・国際社会の多極化や国際協力について、多面的・多角的に考察し、表現する。	・「市場経済の機能と限界」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
	期末 (2) 国際社会の諸課題の探究	・国際経済における日本の地位について、理解する。 ・「国際経済において求められる日本の役割」について、考察する。	・「相互依存関係が深まる国際経済の特質」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
3 学期	学年 (3) 国際社会の諸課題の探究	・国際社会の諸課題を探究する活動を通して、課題の解決に向けて多面的・多角的に考察し、自分の考えを説明、表現する。	・「国際経済において求められる日本の役割」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
取組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1 教科書、政治・経済ノートを持参する。 2 授業に積極的に参加する。 ○家庭学習 1 授業の予習・復習をする。 2 課題に取り組む。 ○定期考査の勉強 1 ノートを参考に復習をし、基礎的な事項を覚える。 2 演習問題に取り組む。 ○その他のアドバイス 1 政治・経済に関するニュースに関心を持つ。 2 政治・経済に関する自分の考えを論述する。		
評 価 方 法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。(100点法)		
	知識・技能	定期考査や小テスト、授業における探究的な学習をもとにして、基本的な用語や諸課題を理解し、考察、説明をすることができるか、また社会の在り方に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめているか等で評価します。(40%)	
	思考・判断・表現	現実社会に見られる複雑な課題を把握し、自分の考えをまとめて説明したり、発表したりすることができるか、議論し、公正に判断しているか等で評価します。(30%)	
	主体的に学習に取り組む態度	課題やノート提出状況・授業への取組・出席状況等を確認します。理解を深めるために、主体的に取り組むことができているか、現代の諸課題を主体的に解決しようと取り組むことができているか等で評価します。(30%)	

単位数	2	生産食品科・3年	履修	必履修・選択
教科書	高等学校 政治・経済（第一学習社）		副教材等	政治・経済ノート
学習の到達目標		授業の進め方		履修の条件・進路
1 現代の諸課題を追究し、主体的に解決にしようとする態度を養う。 2 政治・経済に関する基礎的・基本的な事項を確実に習得する。 3 就職や公務員試験、大学入試等に対応できる学力を身に付ける。		講義式授業を基本とし、政治・経済に関する基礎的・基本的な事項を学習します。個別に興味・関心のあるテーマを決め、探究的な学習も行います。		1 選択者が履修します。 2 就職や公務員の一般教養試験、大学入試への対応ができます。

	学 習 内 容		学習のポイント	学習の到達目標
1 学 期	中間 考 査	1 現代日本の政治・経済の諸課題 (1) 現代日本の政治・経済	・政治や政治権力の意味とその役割について理解する。 ・よりよい民主政治のあり方について、考察し、表現する。	・望ましい政治のあり方及び主権者としての政治参加のあり方について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
	期末 考 査	(2) 現代日本の諸課題の探究	・経済の役割と市場経済における人々の選択について、理解する。 ・現代社会の諸課題を探究し、課題の解決に向けて、考察し、説明、論述する。	・望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
2 学 期	中間 考 査	2 グローバル化する国際社会の諸課題 (1) 現代の国際政治・経済	・現代社会の諸課題を主体的に解決し、合意形成や社会参画を目指す。 ・国際社会の多極化や国際協力について、多面的・多角的に考察し、表現する。	・「市場経済の機能と限界」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
	期末 考 査	(2) 国際社会の諸課題の探究	・国際経済における日本の地位について、理解する。 ・「国際経済において求められる日本の役割」について、考察する。	・「相互依存関係が深まる国際経済の特質」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
3 学 期	学年 末 考 査	(3) 国際社会の諸課題の探究	・国際社会の諸課題を探究する活動を通して、課題の解決に向けて多面的・多角的に考察し、自分の考えを説明、表現する。	・「国際経済において求められる日本の役割」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
取組 の ア ド バ イ ス	○授業の取組 1 教科書、政治・経済ノートを持参する。 2 授業に積極的に参加する。 ○家庭学習 1 授業の予習・復習をする。 2 課題に取り組む。 ○定期考査の勉強 1 ノートを参考に復習をし、基礎的な事項を覚える。 2 演習問題に取り組む。 ○その他のアドバイス 1 政治・経済に関するニュースに関心を持つ。 2 政治・経済に関する自分の考えを論述する。			
評 価 方 法	3つの観点別学習状況の評価の達成度をもとにして、総合的に評価します。（100点法）			
	知識・技能	定期考査や小テスト、授業における探究的な学習をもとにして、基本的な用語や諸課題を理解し、考察、説明をすることができるか、また社会の在り方に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめているか等で評価します。（40%）		
	思考・判断・表現	現実社会に見られる複雑な課題を把握し、自分の考えをまとめて説明したり、発表したりすることができるか、議論し、公正に判断しているか等で評価します。（30%）		
	主体的に学習に取り組む態度	課題やノート提出状況・授業への取組・出席状況等を確認します。理解を深めるために、主体的に取り組むことができているか、現代の諸課題を主体的に解決しようと取り組むことができているか等で評価します。（30%）		